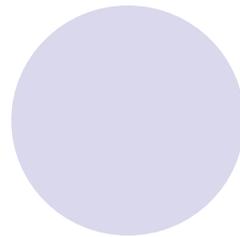
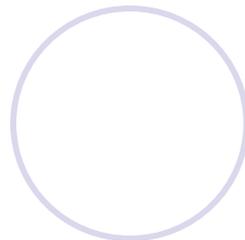
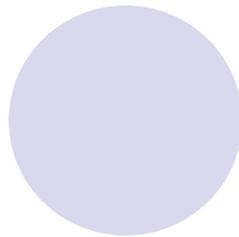
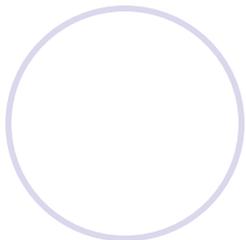
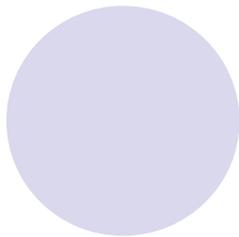


「大学における情報教育とICT活用の現状」

2026年1月16日

高崎商科大学 商学部 経営学科(情報コース) 教授
日本システム監査人協会 理事
荒牧 裕一



自己紹介

講師紹介①

(学歴等)

- ◆ 昭和40年3月 名古屋市に生まれる。
- ◆ 昭和62年3月 同志社大学 法学部 法律学科 卒業
- ◆ 平成13年3月 大阪学院大学 商学部(通信制) 卒業
- ◆ 平成17年3月 信州大学大学院 工学系研究科
博士前期課程(情報工学専攻) 修了
- ◆ 平成22年3月 神戸学院大学 実務法学研究科
(法科大学院) 修了
- ◆ 平成30年3月 大阪大学大学院 法学研究科
博士前期課程 知的財産法プログラム特別コース 修了
- ◆ 令和 4年3月 立命館大学 テクノロジー・マネジメント
研究科 博士後期課程 修了

講師紹介②

(職歴)

- ◆ 昭和62年4月 西日本建設業保証(株)入社
- ◆ 平成 7年4月 (株)建設総合サービスに出向
- ◆ 平成12年3月 一身上の都合により 退職
- ◆ 平成12年4月 荒牧総合研究所を開業
(中小企業診断士事務所)
- ◆ 平成24年4月 京都聖母女学院短期大学 准教授
- ◆ 平成30年4月 大和大学 准教授
- ◆ 令和 2年4月 大手前短期大学 教授
- ◆ 令和 5年4月 かなざわ食マネジメント専門職大学 教授
- ◆ 令和 7年4月 高崎商科大学 商学部 経営学科 教授

講師紹介③

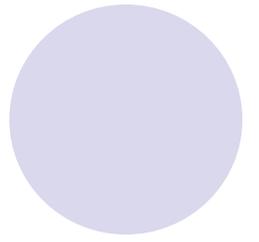
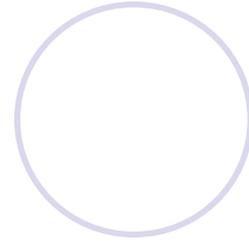
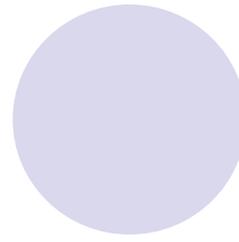
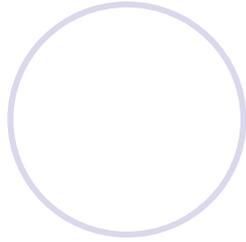
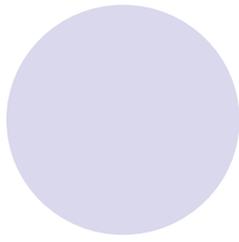
(主な資格－国家資格系)

- ◆ 昭和63年11月 司法書士試験合格
- ◆ 平成 3年12月 税理士試験科目合格 (簿記論)
- ◆ 平成 6年 4月 中小企業診断士 (情報部門) 登録
- ◆ 平成 8年12月 税理士試験科目合格 (財務諸表論)
- ◆ 平成12年 2月 米国公認会計士試験合格
- ◆ 平成14年 1月 マンション管理士試験合格
- ◆ 平成18年 6月 旧司法試験第2次短答式試験合格
- ◆ 平成21年10月 貸金業務取扱主任者資格試験合格
- ◆ 平成23年 6月 新司法試験短答式試験合格
- ◆ 平成23年11月 公認会計士試験合格

講師紹介④

(主な資格－IT系・各種検定)

- ◆平成 3年 6月 第一種情報処理技術者試験合格
- ◆平成 8年 1月 システムアナリスト試験合格
- ◆平成21年 6月 システム監査技術者試験合格
- ◆平成21年12月 ITストラテジスト試験合格
- ◆平成22年 6月 情報セキュリティスペシャリスト試験合格
- ◆平成22年12月 ネットワークスペシャリスト試験合格
- ◆平成29年12月 情報処理安全確保支援士試験合格
- ◆平成 7年11月 秘書技能検定 1級合格
- ◆平成17年 3月 TOEFL (CBT) 最高スコア 250
- ◆平成17年 5月 TOEIC 最高スコア 965
- ◆平成19年11月 建設業経理士検定 1級合格
- ◆平成23年 4月 ビジネス会計検定試験 1級合格



高崎商科大学の概要

学部・学科 等

高崎商科大学 商学部

経営学科(経営コース・情報コース・観光まちづくりコース)

会計学科(会計コース・金融コース)

(情報学科 ※2027年度開設予定)

高崎商科大学 大学院 商学研究科

高崎商科大学 短期大学部

経営学科

高崎商科大学附属高等学校

高崎商科大学 佐藤幼稚園

在学生・教職員数(2025年5月現在)

在学生数

- ・商学部 経営学科 639人(收容定員520人)
- ・商学部 会計学科 337人(收容定員280人)
- ・大学院 1人(收容定員10人)
- ・短期大学部 132人(收容定員220人)

教員数

- ・大学・大学院 31人
 - ・大手前短期大学 10人
- 他に、非常勤教員が同数程度

職員数 42人(2024年4月現在)

特徴

人数的には小規模校
商学部の偏差値は40~50

資格(公認会計士・税理士)の指導に力を入れる
公認会計士試験 11年連続(合計39人) 現役合格

高校教員免許(商業、情報)が取得可能

情報教育に熱心
情報系教員(常勤)が6名
情報学科の開設 情報教育棟の新築を計画中

毎週金曜日はオンライン授業のみを開講

情報関係の開講科目等

科目一覧

- 情報リテラシー I
- マルチメディア表現
- Adobe動画コンテンツ制作
- 経営情報活用
- 情報行動論
- AI入門
- 情報システム基礎
- プログラミング II
- 情報セキュリティ論
- 情報リテラシー II
- Webデザイン
- 実践コンテンツ制作
- 経営情報管理
- デジタルマーケティング
- 情報処理 I
- 情報システム事例研究
- 情報システム開発実習
- ネットワークシステム開発実習
- ICT活用
- Adobeクリエイティブデザイン
- ゲーム制作
- eコマース
- データリテラシー
- 情報処理 II
- プログラミング I
- 情報ネットワーク論

※商学部 経営学科

資格対策も万全！

基本情報処理技術者講座／応用情報処理技術者講座／ITパスポート試験対策講座／Webデザイン技能検定講座／MOS講座Word365・Excel365・PowerPoint365

TUCなら高等学校教諭一種免許状（情報）も取得可能！（※）商学部経営学科

情報系教員の紹介

CHIKU MASAYUKI



学長 経営学科 教授

築 雅之

修士（学術）
東京大学

専門

情報教育、情報処理教育



SASAKI MASATO

経営学科 教授

佐々木 正仁

博士（工学）
北海道大学

専門

情報システムの最適化・
知能化、ビジネス分野へ
の人工知能応用感性を反
映した意思決定支援シス
テム



OKUBO HIROKI

経営学科 教授

大久保 博樹

修士（専門職）
デジタルハリウッド大学
院大学
デジタルコンテンツ・マ
ネジメント

専門

音響効果、映像音響論、
デジタル映像・音響制作

KARASAWA TOMOHIISA



経営学科 教授

唐澤 朋久

博士（工学）
信州大学

専門

情報工学、マイコン制
御、情報技術を応用した
モノづくり



CHUBACHI NAOHIRO

経営学科 准教授

中鉢 直宏

修士（政策・メディア）
慶應義塾大学

専門

一般情報教育、文系向け
データリテラシー教育、
高大接続における情報教
育



YUICHI ARAMAKI

経営学科 教授

荒牧 裕一

博士（技術経営）
立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメ
ント研究科

専門

経営情報、情報セキュリ
ティ、知的財産権

ICT活用の現状

Zoomの利用

オンライン授業(毎週金曜日)* 教員にライセンス配布
教授会(原則)、各種委員会(原則)、教職員研修(半分)

学修支援

教務システム一体型ポータルシステム「**A-Portal**」
70以上の大学・短大で採用、* 統計処理等も可能

学生・教職員間の連絡

SNS風ツール「**Melly**」を使用 * レポート提出にも利用

教職員内の事務連絡等

サイボウズ「**Garoon**」を利用

「A-Portal」の画面例

Active Portal 設定 日本語 ENG ログアウト

高崎商科大学 FC10045 荒牧 裕一

前回ログイン日時: 2026/01/10 15:24:31 マニュアル

メッセージ

- メッセージ

学生指導

- 学生検索
- 自己評価
- アンケート
- Melly

授業支援

- レポート管理
- 受講者名簿ダウンロード
- 成績報告書登録
- シラバス閲覧(大学)
- シラバス閲覧(大学院)
- シラバス閲覧(短大)
- シラバス登録(大学)
- シラバス登録(大学院)
- シラバス登録(短大)

就職活動支援

- 企業検索 (TUCキャリア)

Web出欠管理

- 出席簿
- 出欠登録

掲示板 [一覧へ >>](#)

- 01/06(火) **重要** 2025後期 定期試験における特別対応について
- 01/05(月) **重要** 1/9(金)1・3・4号館断水のお知らせ
- 11/13(木) Windows10使用者必見！Windows 10 ESUでPCを安全に使...
- 10/30(木) 【オフィスアワー制度】について (2025/11/5更新)
- 10/14(火) **重要** 【重要】お使いのPCは大丈夫？Windows 10サポート終了と皆...

休補講・教室変更 [一覧へ >>](#)

掲示はありません

時間割

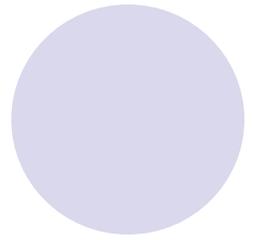
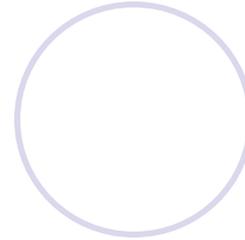
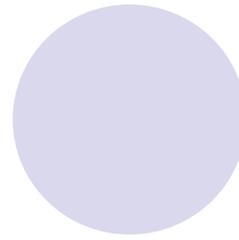
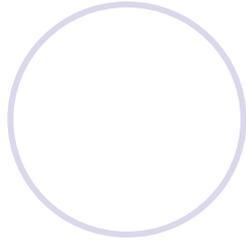
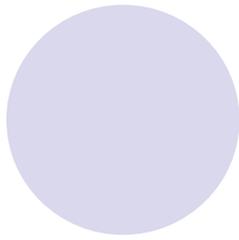
日 週 月 今日 < >

2026年 1月 4 ~ 10 日

	1/4 (日)	1/5 (月)	1/6 (火)	1/7 (水)	1/8 (木)	1/9 (金)	1/10 (土)
指定なし	後期授業期間						
	冬季休業						
8:00							

「Melly」の画面例





情報系学部の開設

近年の開設例(関西)

- 2023年 大和大学 情報学部
- 2023年 京都女子大学 データサイエンス学部
- 2023年 武庫川女子大学 社会情報学部

- 2025年 兵庫大学 システム情報学部
- 2025年 追手門学院大学 理工学部
(数理・データサイエンス学科、情報工学科)
- 2025年 大阪産業大学 情報デザイン学部
- 2025年 関西大学 ビジネスデータサイエンス学部
- 2026年 京都橘大学 デジタルメディア学部
- 2026年 関西国際大学 情報デザイン学部
- 2027年 大手前大学 情報学部(予定)

情報系学部開設の背景

AI・データサイエンス人材育成の強化

※2016年に6つの拠点大学を指定

※「**数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度**」

文科省「**大学・高専機能強化支援事業**」

デジタル・グリーン等の成長分野を担う理系人材育成のための学部再編への補助金制度(最大20億円)
(公立・私立の**理工農の学位分野**が対象)

※第1回(2023年)選定 67件(内43件が情報系)

第2回(2024年)選定 59件(内40件が情報系)

第3回(2025年)選定 27件(内18件が情報系)

※2032年度まで受付

数理・データサイエンス・AI教育 プログラム認定制度



MDASH Advanced Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data Science and AI Lower Higher Education,
designated by the Gov of Japan

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
応用基礎レベル



MDASH Advanced Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data Science and AI Senior Higher Education,
designated by the Gov of Japan

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
応用基礎レベル プラス

エキスパート

2,000人/年
(トップクラス100人/年)

エキスパート

データサイエンス・AIを駆使してイノベーションを創出し
世界で活躍できるレベルの人材の発掘・育成

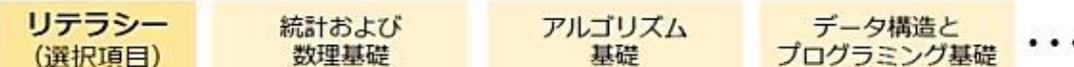
応用基礎

25万人/年
(高校の一部、
高専・大学の50%)

自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得



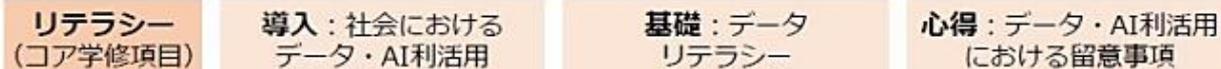
数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキル



リテラシー

50万人/年
(大学・高専卒業生全員)

初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得



リテラシーレベル
モデルカリキュラム

大学・高専機能強化支援事業

大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

事業創設の背景

- デジタル化の加速度的な進展や脱炭素が世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想。
- デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部の学位取得者割合
【国際比較】日本 35%、仏 31%、米 38%、韓 42%、独 42%、英 45%
【国内比較】国立大学 57%、公立大学 43%、私立大学 29%
(注)「理・工・農・医・歯・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

支援の内容

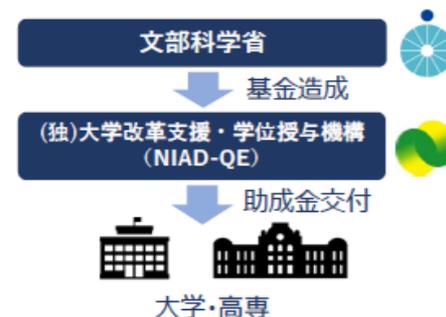
① 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

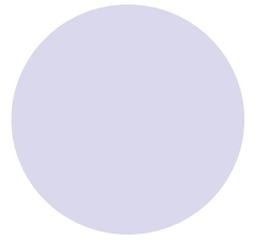
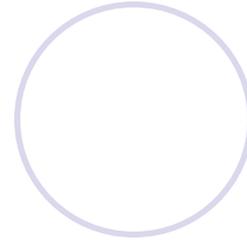
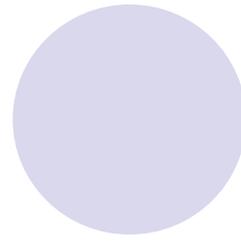
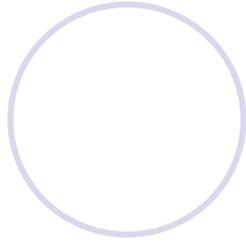
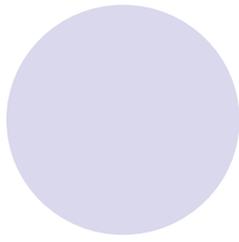
- 支援対象：私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）
- 支援内容：学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）
定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援
- 受付期間：令和14年度まで

② 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

- 支援対象：国公私立の大学・高専（情報系分野が対象。大学院段階の取組を必須）
- 支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制強化、
高専の学科・コースの新設・拡充に必要な経費
定額補助・10億円程度まで、最長10年支援
※ハイレベル枠（規模や質の観点から極めて効果が見込まれる）は20億円程度まで支援
- 受付期間：原則令和7年度まで

【事業スキーム】





教育 × 情報の現状

オールドメディアの衰退

E-Mailの衰退

- ・連絡はSNSが主体。学内の連絡もMellyを使う
- ・就職活動の際に再度指導する
 - 就活の早期化により、1年次から指導する必要性
- ・タイトル無、自分を名乗らないmailが多発
- ・アドレスを全角で入力、大きすぎる画像データ

電話の衰退

- ・発信者番号通知により個人からの電話に出てもらえない
- ・大学の代表電話からの通知には出てもらえ易い

紙媒体の減少

- ・コピー、プリンタを使わない
- ・授業資料もPDF等でネットで提供

授業運営のICT化の弊害

出席のICT化

- ・授業開始時に入口の端末に学生証をかざす
→終了時にはチェックしない
- ・授業開始時にA-Portalでパスコードを入力(本学)
→教室にいなくても出席にできる？

小テスト・アンケート等をネットで実施

- ・集計処理には便利
→教室にいなくても解答・回答が可能？

授業資料をネットで提供

- 出席しなくても授業内容の把握が可能？

教室にリアルに出席しなくても単位が取れる??

BYODへの移行

BYOD(Bring Your Own Device)

PC教室を廃止し、学生個人のPCを持参させる。

背景

- ・情報系授業以外でのPC使用の増加
- ・オンライン授業対応のため全学生がPCを保有
- ・PCリース、アプリのライセンス料の負担増大
- ・無線LAN・電源の強化は先行して実施済

問題点と対応策

- ・PCを忘れる→PCの当日レンタル
- ・荷物が増える→過半が自動車通学、ロッカーの貸与
- ・トラブル対応が難しい→学生サポーターの強化
- ・アプリのライセンス料→一部学生負担(¥5,000)

PC貸与コーナーと学生用ロッカー



セキュリティ教育

教職員向けのセキュリティ研修

- ・個人情報・プライバシー保護については厳しい
- ・オンライン授業では顔出しをさせないのが原則

学生向けのセキュリティ教育

- 1)パスワードの管理
- 2)アンチ・ウィルスソフトの導入(現在はほぼ不要に)
- 3)フィッシング詐欺等への注意喚起
- 4)SNS利用での誹謗中傷等
- 5)著作権侵害の防止
 - ・コピーがOKの場合とNGの場合
 - レポート・論文の引用ルールと合わせて指導
 - ・ネット利用における著作権侵害

ネット利用(YouTube等)と著作権

カラオケの歌唱動画	×	カラオケメーカーに著作権のある音楽で歌唱した動画の公開: 著作隣接権侵害
ゲームのプレーの動画	△	ゲームでプレイした動画の公開は、原則はゲーム画面の著作権侵害。一定条件下で認める会社も多い
ダンスの動画	△	ダンスが振付師に著作権がある場合は著作権侵害
自分で曲の演奏の動画	○	ユーチューブが日本音楽著作権協会の許諾契約を結んでいるため、違法ではない
動画のBGMにCD等をつける	×	CD会社に著作権のある音楽の公開: 著作隣接権侵害
背後に美術写真が映ったり、音楽が入り込んだ	○	偶然背景に絵画や音楽などが入ってきた場合には違法ではない
他人が作った作品をホームページに掲載	×	自分が著作権を持たない他人の音楽や写真等を無許可でアップロードするのは違法となる
違法著作物の違法ダウンロード	×	ネット上に違法にアップロードされている映像・音声の著作物を、違法なものであると知りながらダウンロードする行為は違法となる

IRの浸透

IR (Institutional Research)とは
教学や大学運営の評価・改善を目的とした情報収集
→ **認証評価(7年ごと)、自己点検(毎年)で不可欠**

収集する情報の例(教学)

- ・入学者選抜の結果
- ・アセスメントテスト(外部業者を利用)の結果
- ・授業科目の成績やGPA(グレードポイントアベレージ)
- ・授業評価アンケートの結果
- ・学生生活満足度調査の結果
- ・施設設備アンケートの結果
- ・DPルーブリック自己評価の結果
- ・卒業生対象アンケートの結果
- ・DPについての対企業アンケート

生成AIの活用??

現在の生成AIは「**です・ます調**」「**計算処理**」にも対応

レポート等

当然のように学生は利用してくる

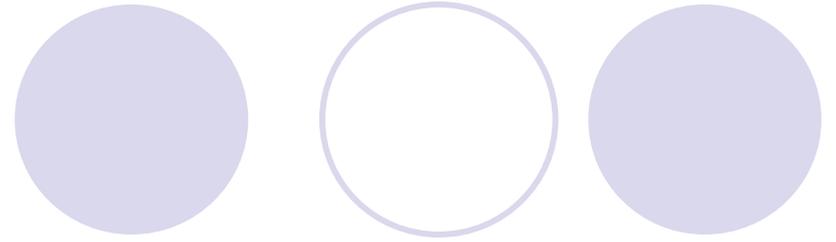
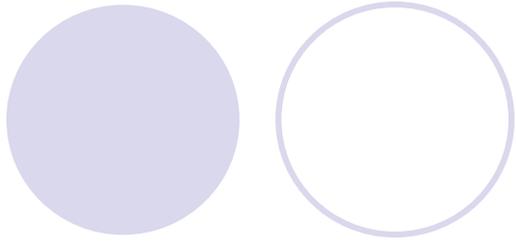
→(AI以外の)参考文献を明記させるよう指導

卒業研究

- ・先行研究の論文をAIに要約させる
- ・統計処理(重回帰分析等)をAIで出力
- ・分析(SWOT分析等)もAIを使う

就職活動

- ・エントリーシートの「志望動機」「自己PR」欄作成で多用
- エントリーシートを廃止する企業(ロート製薬等)も



ご清聴ありがとうございました。